保護申請や開始が増えた要因について

保護申請や開始が増加した要因につきまして、具体的には、開始世帯数が、今年度の4月から10月までで昨年の同時期と比較して80世帯増えており、事由別の統計を見ますと最も増えているのが「その他」の事由で38件の増、これは主に預貯金の減少となっております。

その他、「定年・失業による就労収入減」が15件の増、「県外からの転入」が11件の増となっております。なお、県外からの転入につきましては、県外の施設が閉鎖となり、その入所者を桐生市内の施設が受け入れたケースが大半を占めております。

転入以外の要因は、明確に把握しておりませんが、物価高騰による影響のほか、申請しやすいように窓口対応を改善したことやホームページをわかりやすくしたことなどが影響しているものと考えております。

生活保護 事由別開始世帯数4月～10月比較表

	開始事由											
	世帯主の傷病	世帯員の傷病	働きの死亡	働きの手の離別・不在	就労収入減			転入			その他	合計
					定年・失業	老齢	その他	県内の市から	県内の町村から	県外から		
R5.4～10	14	0	0	0	2	0	0	0	0	0	15	31
R6.4～10	16	2	0	4	17	5	2	1	0	11	53	111
増減	2	2	0	4	15	5	2	1	0	11	38	80

※県外転入11件のうち8件は廃止施設から